（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900435		
法人名	社会福祉法人　廣山会		
事業所名	認知症グループホーム　プルミエールひたち野		
所在地	茨城県かすみがうら市上土田字山田330-9・10		
自己評価作成日	平成29年4月10日	評価結果市町村受理日	平成29年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873900435-00&PrefCd=08&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束４６３７－２
訪問調査日	平成29年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一年を通してさまざまな行事を開催し利用者の皆様、ご家族、地域の皆様にも楽しんでいただいています。
・四大行事：大納涼祭・敬老会・餅つき大会・ひなまつり会
・目玉レク：かるた大会・紙芝居・鯉のぼり釣り大会・リアル結婚式・金魚すくい・スイカ割り・ふかし芋・もみじ狩り・クリスマス会・福笑い・豆まき
・外出行事：水郷公園・土浦イオン・かすみキッチン・かすみがうらまつり
・誕生会：毎月実施（誕生者紹介・誕生会メニュー・デザートバイキング）
・行事：お花見・運動会・忘年会・安全祈願祭

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

高台の広大な敷地に、特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホームが併設している。法人理念をもとに個人目標を設定し、日々タイムカードに○×式で記入をし振り返りを行っている。併設施設の利用者、家族と共に施設行事に参加し楽しんでいる。また、大納涼会や敬老会など、地域住民にパンフレットを配布して参加を促し、地域住民と共に楽しんでいる。また、法人として各委員会の設置やロボット介護機器、インカム無線の導入など、併設施設と共に利用者サービスの向上と、職員への配慮に努めている様子が伺われた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、経営理念・心の目標・基本方針を配布し理事長からの説明がある。会議に参加できない職員にも他会議・会議録等で周知している。また、いつでも確認できるように施設内に掲示している。毎月、班・個人の目標を定め100%達成に向け取り組んでいる。	法人理念をもとに個人目標を設定し、日々の支援を通して振り返りを行っている。また、個人目標の記入用紙には施設長がコメントを書き共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事に、多くの地域の方を招待し交流を図っている。また、地元の小中学校の運動会や地域の一斉清掃、草刈り等にも参加している。	隣接する施設ホールや敷地内で、地域、利用者家族、ボランテイアと共に、イベントを開催している。近隣の中学校の体験学習についても、依頼があれば随時行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の講習会・いきいき健康教室などで講師を務め、認知症についての理解や支援方法についての周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や委員会活動・苦情や事故状況等を報告、意見交換・アドバイスを頂き、サービスの向上に繋げている。	年6回、偶数月に開催している。運営推進会議は事前アンケートをもとに行ったり、研修会や行事と同日に開催しサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所から施設も近く、施設行事や運営推進会議等にも参加して頂いている。市役所に出向き情報を伝えたり、市からの相談があった場合にはその都度対応し、協力体制を築いている。介護相談員も受け入れて、利用者の思いの把握にも努めている。	法人として支援センターや配食サービスなど市からの委託業務を受けている。また、利用者の困難事例などの相談を行い連携を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人には身体拘束禁止委員会もあり、施設内外の研修に参加して、身体拘束をしないケアについて学んでいる。玄関の施錠も利用者の安全を第一に考えて取り組んでいる。	新人または現任オリエンテーション時に、定期的な研修を行っている。また、車いすの点検方法についての動画を作成し、随時点検が行えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人には虐待防止委員会もあり、施設内外の研修に参加して、高齢者虐待防止法について学ぶ機会がある。会議等でも話し合いを行い、職員同士の関係性も大事にして、指摘しあえる関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加して、権利擁護について学ぶ機会を設けている。成年後見制度を使用している利用者もいるので、話し合いや活用できる環境となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、事前に自宅へ訪問・施設見学して頂き不安や疑問点を尋ねている。契約時にはわかりやく説明を行い、理解して頂き印を頂いている。改定等の際は、家族懇談会及び事前に通知し説明・同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のアンケートで出た意見・要望・苦情には、家族懇談会で回答し、部署会議でも話し合い改善に努めている。利用者の意見・要望・苦情等は、その都度記録に載せ、それを管理者・統括・ケアマネ・第三者委員が確認し、改善策を考え日常のケア・運営に反映させている。	利用者からは日々の支援を通して意見をもらい反映している。家族には年2回の懇談会や年4回の行事毎に、利用者についてと職員についてのアンケートを行い反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを大切にして、意見や提案が出やすい環境作りに努めている。また、施設長は様々な施設会議に出席して意見や提案を聞く機会を設けている。	関連施設合同の委員会があり、委員会を通して連携や意見交換を行っている。また、3ユニット合同のホーム会議では、担当者会議、伝達講習を行ない反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表や残業命令簿などを必ず確認して、負担に偏りがないかを確認している。各職員に適した委員会に所属してもらい、やりがいを持ち働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や職責に応じて、施設内外の研修に参加して学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修や近隣施設合同での研修、行事等を通して、交流を図り、情報交換も行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れ前には必ず事前調査を行い、要望や不安に思うことを把握する。把握できた情報は施設職員で共有してから受け入れている。入居後も、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時点で、相談者からよく話を聴き、事前調査を必ず行う。その際に、家族が不安に思う事や要望を聞き、安心してサービスを受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時などに家族状況・心理面・医療面などを家族・各専門職で話合い、必要としているサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って生活して頂けるように、掃除や食事の下膳、テーブル拭きなど出来るところはやって頂いている。感謝の言葉も忘れず伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にや行事の時には、家族と一緒に過ごして頂いている。その際には、近況を伝えたりしている。面会に中々来れない家族にもグループホーム通信を送り、利用者の状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には今まで使用していた家具などを持ち込めることを本人、家族に伝えている。家族とのお墓参りや買い物、礼拝など要望を柔軟に受け入れ対応している。友人が面会に来てくださる方もいます。	家族との外出や外泊、買い物に出かけている。また、施設行事やデイサービス利用時に面会に来る方がいる。その他、ボランテイアの知り合いが面会に来るなど、日常的に馴染みの方が面会に来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や、状況を見極めて孤立せずに他の利用者と関わり合い、支え合えるような環境作りに努めている。会議等では職員同士の情報を収集し共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の際には、今後について話し合いを持ち、退居後いつでも相談に対応できること旨を伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査や契約の時に暮らし方の希望や意向を聞き、把握に努めている。困難な場合には本人や家族と話し、生活歴などからも検討をしている。	利用開始時の事前調査や生活背景から意向を聞き反映させている。また、日々の生活状況から、意向を把握している。日本酒を希望され、医師の許可を得て規定量を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査は自宅で行う事もあります。自宅で行う事によりその方の生活環境も良く分かります。サービス利用の経緯についても本人や家族などから聞き、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から聞いた生活歴などを基に、一日の過ごし方についての把握に努めています。身体の状況は毎日行うバイタル測定での把握。有する能力は食事状況や排泄状況などから現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との普段の会話の中でどのように暮らして行きたいのか聞き、家族にも面会時などに意見も聞いている。それらのことを踏まえたうえで介護計画を立てて、家族に確認して頂いてる。	モニタリングは毎月の会議で行い、6か月または随時行い計画している。日々の介護記録はPC内に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は介護記録書に記入している。特記事項などは朝礼時や、他の時間帯の職員の始業時にも申し送りで伝わる仕組みになっている。また、ノートにも記載して共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出時や、退所の際にも、家族と連携を取り、対応している。また、ニーズによっては併設の施設への移動なども提案している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の学校や、他の施設の行事に参加して楽しまれている。また、豊かな自然の中を散歩したり、花見などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人として24時間体制の病院と連携している。事前調査時に、かかりつけ医の確認を行い、家族が受診困難な場合には対応している。主治医に年1回の健康診断の結果や定期受診の時に状態を伝えている。	関連病院への定期受診を午前中に行っている。突発受診も職員が付き添い、病院で家族と合流している。受診時は利用者個々の受診記録を持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度は、併設の事業所より正看護師が来て利用者の状況を伝えている。アドバイスなど頂き、受診へ繋げている。毎月看護師の会議に参加し、各事業所の状況報告や感染症等についても話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ情報を提供している。必要な物があれば用意も行う。入院中も面会へ行き、本人の状態の把握に努めている。ムンテラの時にも家族と同席させて頂いている。また、急な退院などにも柔軟に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、痰の吸引等の研修に参加し、家族の要望に対応できるように努めている。契約時には、施設としての考えや対応などについて説明を行い、同意を頂いている。	平成28年度から看取り支援が出来ることになっているが、まだ実践はできていない。今後、病状に合わせて担当医師が説明し、同意書をもとに看取りをいく。	住み慣れた環境で看取りを行うにあたり、家族や職員が介護計画を見直し、プランに沿った支援とは何かを検討して研修等を取り入れて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人、現任に関係なく救急救命士の指導による心肺蘇生方法や止血方法。誤嚥時の対応について講習を受けている。ほぼすべての職員が普通救命講習を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会を中心に、消防署の指導による総合防災訓練の定期的な実施。夜間想定訓練や毎月行う炊き出しの訓練など行っている。備蓄品も常備している。災害時には地元の区長や消防団からの協力が得られる体制になっている。	隣接する関連施設と合同で総合防災訓練を行っている。また、発電機を設置し無線電話が使用できるようになっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	司令塔となる職員が、一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない声掛けが行われているか確認している。職員は施設内外の研修に参加して学び、ボランティアの方にも守秘義務をお願いしている。	日々の支援を通して、利用者一人一人のペースを考えながら声掛け誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での衣類の選定や、席の場所などの希望を聞き対応している。また、毎月の誕生会好きなデザートを選んで頂き、自己決定を促している。言葉では意思表示できない方には、普段の様子から読み取り実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で過ごす、席の場所や排泄。昼寝など、本人の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事前調査の時に生活歴と共に、衣類やおしゃれについても聞くようにしている。行事があるときには女性の方に化粧を促しメイクして頂いたり、施設で過ごす衣類も自宅にある今まで来ていた衣類を持ち込み着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けは身体状況も変化してきており、下膳やテーブル拭きなど本人が有する力を大切にして行って頂いている。また、食事中の咽などを防ぐために毎食前は必ず口腔体操を行っている。毎月の誕生会でデザートバイキングを行っており、楽しまれている。	献立は関連施設の管理栄養士が作成している。厨房で主食とお味噌汁以外を調理して各施設に運んでいる。食事形態はスタッフ間で話し合い検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や毎月行う栄養会議の中で、管理栄養士に相談したり、病院からの退院時など食事形態に変化があった時にも情報の共有化が出来る様にしている。水分量もチェック表を用いて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをその人の有する能力に応じて支援している。義歯の方は毎晩預かり、ポリデントを使用して衛生管理にも努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月行う会議の中で、排泄チェック表やADL、本人からの訴えなどを確認して、より良い排泄方法を話し合い、選定している。	利用者一人一人に合わせて排泄パターンを把握し、手引き歩行、声掛けを行い自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では一日一回、牛乳などの乳製品を飲んで頂いている。また、職員が始業時に行うラジオ体操にも参加してもらい便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	テーブルごとに誘導したり、希望により女性職員が対応したりしている。また、入浴を希望されない多方に、人や時間を変えての声掛け、誘導を実施している。季節湯も実施し、四季を感じ楽しく入浴できるよう心がけている。	週2回の入浴支援を行っているが、行事や受診などで入浴回数が限られてしまうことがある。家族からの要望により、入浴回数なども検討しながら、入浴を楽しむ支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活習慣をもとに就寝時間、起床時間、昼寝に至るまで希望に添えるようにしている。就寝前にお酒を飲む方や職員と会話を楽しんでから休まれる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に処方箋、受診記録を閉じ込み、いつでも職員は確認できる。受診の時に主治医から服薬について指示が出れば申し送りノートに記入したり、朝礼時に職員へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が自ら進んで洗濯物たたみや、お盆拭き、テーブル拭き、掃除などを行い、役割を持つことにより張りのある生活を送って頂いている。オセロやカラオケなどは希望により、いつでも行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訴えがあったときには、自宅や買い物にお連れすることもあります。日常的に戸外へ出かけることはできていないが、定期的に企画を立てて県内の様々な場所へ家族、地域のボランティアにも協力して頂き出掛けている。	四季に合わせて家族やボランテイアと共に出かけている。敷地内の公園に散歩に出掛けたりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の了解のもと、お金を所持している方もいます。また、外出行事の時には一人ひとりに財布をお渡しし、自己で支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関して本人、家族の希望により柔軟に対応している。年賀状や暑中見舞いなど定期的に手紙を送ってくれる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度は空調を活用して適切な温度になるように管理している。気の会う仲間と過ごせるよう座席等も工夫している。また、ホール内の飾り付けは季節感が出るようにしている。広い共有空間を活かして、閉鎖的にならないように自由に歩いて頂いている。	コンクリートの作りで天井が高く、明るい空間作りがされている。5月の鯉のぼりが室内に飾られ、四季がわかるような工夫がされている。行事の写真や絵などが飾られ、行事一つ一つを楽しんでいる様が伺われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は気の合う方仲間と座って頂いている。施設内の至る場所にソファーを設置して好きな時に誰でも利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時などに自宅で使い慣れた家具や衣類の持ち込みは事由であることを本人、家族に伝えている。住み慣れない場所でも本人が不安にならないような空間作りに努めている。	馴染みの家具や写真、飾りが置かれ、安心した落ち着いた雰囲気がする部屋作りがされている。安全対策も転倒しないように、ベッドの配置の工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりが至る所に付いている。居室の場所も本人の有する能力を考慮して、本人・家族と相談して場所を決めている。各居室には、家族・利用者に承諾を頂き表札を掛け、自己の居室がわかるようになっている。		

（別紙4（2））

事業所名：認知症グループホーム　プルミエールひたち野

目標達成計画

作 成 日 ：平成29年7月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	看取りのに対して施設の方針を家族に説明して同意を得て、平成28年度より看取りを行う事は可能になっているが出来ていない。主治医との連携や、職員の知識などの体制が整っていない。	看取り対応に向けて併設事業所や協力病院などと連携を進める。看取りについての職員教育を行う。	看取りについて、今後の対応を管理者と相談する。相談したうえでどのようにしていくのかを決めて、併設事業所や協力病院と話し合いの場を持つ。職員教育を毎月行う会議内で行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。